

十全會雜誌

(第七拾號)

原著及實驗

●水上防疫ニ關スル調査事項報道

大阪府防疫技師 松王數男(三三卒業)

緒論

明治三十二年以來大阪府ニ於ケル「バスト」流行ヲ第一次ト第二次トニ分チ得ベシ、第一次ノ流行ハ患者ヲ出スコト百六十一名、「バスト」鼠ヲ發見スルコト百八十九頭ニシテ、三十四年六月全ク終熄ヲ告グルニ至レリ、第二次ノ流行ハ明治三十七年十二月ヨリ萌シテ病勢ノ増強猖獗ヲ極メタルハ三十九年(患者百六十名、有菌鼠二千四十三頭)竝ニ四十年(患者五百四十八名、有菌鼠三千二百五十八頭)ニシテ、恰モ戰後財界ノ膨脹發展ニ伴フ物資ノ輻湊、交通ノ頻繁、人口ノ増殖、勞役者ノ増加等俄然トシテ起業熱ノ旺盛勃興セシ當時ノ狀況ト併行セル觀ヲ呈セリ、然レドモ爾後人心ノ靜平ニ趨クト共ニ一方「バスト」病勢モ遂ニ四十年歲末ヨリ續行セル大討伐以來頗ニ衰退ヲ來シテ復往日ノ跋扈ヲ觀ザルニ至レリ、(大阪府ニ於ケル「バスト」流行消長表竝ニ討伐續行ノ成績表等ハ曩キニ大日本私立衛生會雜誌

(原著及實驗)

第三百十四號寄書欄ニ於テ概略ヲ掲載セリ、參照アリタシ) 凭クテ大阪府ニ於ケル特ニ大阪市内ニ於テ大流行ヲ爲セル第二次「バスト」病毒モ殆ンド終熄ヲ告グルニ際セシトキ、恰モ明治四十一年ノ終末ニ當リ、大阪市ノ西北部ヲ流ル、淀川本流ノ末端(安治川)沿岸ノ特ニ船舶ノ輻湊スル舊稱川口波止場ヨリシテ「バスト」鼠ノ發生相踵ギ、狀況稍々不穩ヲ示シタルヲ以テ之ガ沿岸一帯ニ對シ豫防的戒嚴令ヲ布施シ、一面水上來往ノ船舶ヲ探リシニ、果然病竈ハ水上家屋ニ存スルヲ發見セリ

從是以降陸上殊ニ内陸ニ於テハ病毒次第ニ稀疎ト成レルニ反シ、水面ハ倍々多事ニシテ防疫ノ主腦モ亦從テ水面ニ傾倒スルニ至レリ

明治四十一年後半期以降ノ大阪府ニ於ケル

「バスト」流行消長一覽表

年 月 別	場 所 別	除 鼠 數	有 菌 鼠 數	患 者 數
四十七年 七月	陸船 上船	一〇四	九〇七	八
同 八月	陸船 上船	八一	九六五	一
同 九月	陸船 上船	一〇三	七〇二	二
同 十月	陸船 上船	一一九	九六五	一

同 八 月	同 七 月	同 六 月	同 五 月	同 四 月	同 三 月	同 二 月	四 十 二 年 月	同 十 二 月	同 十 一 月
内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	陸船 上舶
九四、 七八 七四、 六三四	一二七、 九五四 一、〇三 四八七	一二七、 五六八 一、四七 四二四	一〇八、 〇三三 一、二五 三七八	七九、 二八五 六五二 九〇六	七七、 八四八 七一三 四八二	六四、 七七三 一、五六 一三四	五〇、 四二九 一、九〇 〇三八	四七、 四三二 三〇五 三二五	一〇三、 〇七四 七四七
一二	一一	八五	四七	二四	二四	二二	六四	六六	四

計	同 三 月	同 二 月	四 十 三 年 月	同 十 二 月	同 十 一 月	同 十 月	同 九 月
内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶	内沿船 陸岸舶
一、九 一、一 四二八	七〇、 五六七	五五、 三六四	四四、 三〇〇 四二九	六五、 六六六	一〇七、 三二四 九三六	一五六、 四一七 一七三	一三〇、 三八五 一七八
一三 四〇 六九	五	三二	二五	一八	四七	二七	一四
二八							

之ヲ要スルニ四十一年後半期以降ノ大阪府ニ於ケル「ベスト」病況ハ全然一  
變シ來リ、即チ第二次流行ノ第二期ニ入リシモノニシテ、恰モ Stadium der  
regressiven Metamorphose トモ看做スベキ乎



(原著及實驗)

第三表 明治四十二年申入津船舶數河川別

船舶種類別	築港並 安治川	本津川	尻無川	計
日本形帆船五十石以下	四七、五九	一四、四〇	三〇、六〇	九五、三〇
日本形帆船五十石以上	一四、五八	一六、九七	八四、五七	三九、九〇
西洋形帆船	七、〇〇	四、四六	一五	一一、六一
汽船	一、〇三	一六	—	一一、〇八
計	八〇、〇九	三五、四九	四三、〇七	一五八、〇三

一ヶ年入津ノ各種船舶總數十五萬八千二十一隻ニ達シ、一ヶ月平均一萬六千六百六十九隻、一日平均五百二十三隻弱トナル、現時ノ防疫機關分力ノ限度ニ於テ派遣セル作用手ノ勞苦ハ實ニ想像ノ外ニアリ

第二項 船舶檢疫施行成績

大阪府ニ於テハ明治三十二年第一次「バスト」侵入以來現時ニ至ルマデ之ガ豫防ノ目的ヲ以テ施行セル船舶檢疫ノ上ニ於テ「バスト」患者ヲ發見セルハ實ニ最近ノ四例ニシテ、(總テ汽船乗組員我國ニ於テハ港務部所在地以外ニ於ケル出來事トシテ寧ロ稀有ノモノニ屬シ、加フルニ患者發生ノ船内ヨリ同時ニ「バスト」鼠ナモ見出セリ、之レガ爲メ大阪府ニ於ケル防疫方針ノ上ニ一生面ヲ開展セシメタルノミナラズ、主トシテ海外「バスト」流行地ヨリ需用貨物ノ供給ヲ仰グル實業界ノ一部並ニ海事業者ノ間ニハ當時尙ホ抱懷セラレタル曲解疑義ニ向テ最後ノ覺醒ト斷定トヲ與ヘタリ

船舶檢疫ニ關スル調査表

年別	派遣醫 師員數	検査數(實數)	發見病類別
四十一年	六五	九八〇	五六、二六四
四十二年	六四〇	一、二六、七〇七	一〇
計	一、二八五	一、二六、七〇七	一〇

由來傳染病者ノ發見ニ基キ船體、貨物ノ消毒、船員、船客ノ隔離等ニ因テ招ク豫定航海日數ノ削減乘客貨物ノ往來減殺ハ海事業者ニ取リテ多大ナル打撃ナルヲ以テ、極力祕セントスルノ傾向アリ、隨テ船舶檢疫ノ困難ナル、而カモ主トシテ小ナル内地航路船ノ多數出入スル大阪港ノ如キハ之レガ施行ノ不斷必要ナル丈ケ、困難モ亦豫想以上ニアリ

第三項 船舶ノ飼猫成績

大阪府ニ於テハ本年最近ノ調査ニ基ケバ飼猫船舶(汽船)四十七隻ヲ得タリ而シテ是等ノ船舶ニ於ケル飼猫後ノ效價ハ未ダ著シク認メ難キモ、除鼠成績ノ上ニ於テ非飼猫船舶ニ比較セバ稍々有望ノ傾向ヲ示セリ、左ニ明治四十二年中ニ於テ三百十三隻ノ汽船ニ對シ施行セル除鼠作業成績ヲ比較掲表セシ

飼猫船舶ト非飼猫船舶トノ除鼠作業成績比較表

船舶別	船數	總噸數	除鼠數	備考
飼猫船	四	六、一七五	一、七三三	一隻ニ對スル除鼠數 三、六〇〇 百噸ニ對スル除鼠數 二、七一
非飼猫船	四	六、一七五	一、七三三	一隻ニ對スル除鼠數 三、六〇〇 百噸ニ對スル除鼠數 二、七一

計	三三	二六、九七九	八、七五	噸數ニ以テ比較セバ飼猫ノ效價初メテ認メ得ルニ適シ
非飼猫船	二六	一五、三四	七、〇八三	一隻ニ對スル除鼠數 二六、三三 百噸ニ對スル除鼠數 四、七一

若夫レ如今猫種ヲ選擇シ、マタ愛玩ノ一方ニ偏セズ、捕鼠作業ヲ訓練助長セバ次第二船内ノ蓄猫モ有望ノモノト爲ルコト必セリ、但次項ニ於テ論ゼントスル船内ノ繁殖鼠族ニマデモ威力ヲ及ボスベキヤハ疑問ナリ

#### 第四項 船體ノ構造中特ニ船艙並ニ艙口ノ構造ニ就テ

船體ノ構造ハ造船學上多種多樣ニ分類セラル、ナランモ、防疫上ノ知見ヲ以テセバ艙口並ニ艙内ノ構造、按配ニ重キヲ措カザル可カラズ、一船内鼠族ノ群棲ハ主トシテ船艙内ニアリ、船艙ハ諸種ノ貨物ヲ容載スルヲ以テ「荷粉」ハ隨テ此内ニ生シ、安全ニシテ食料ニ缺乏セザルガ爲メナルベシ、若夫レ猫族ヲ艙内ニ投入スルトセンカ、艙内昇降ノ梯子ハ皆直立鐵製ニシテ猫ノ出入ニハ不適ナルノミナラズ、恐ラクハ貨物ノ壓死ヲ免レザルベシ、未ダ之レガ試放ヲ行ハザルモ、夫ノ鼠蚤採取ノ目的ヲ以テ放テル「モルモツト」ハ引揚ノ際大抵積載貨物ノ爲メニ壓死セルヲ發見スルハ事實ナリ艙内ノ構造ニ注意ヲ促スベキ點ハ寡シトセズ、然レドモ先ツ從テ是レ以前ニ「ハツチ」ノ造構ヲ改良スルハ頗ル緊要事ニ屬セザルカ、左ニ試ミニ「ハツチ」ノ構造ヲ異ニスルモノニ就テ調査セル除鼠成績表ヲ掲グベシ

艙口ノ構造ヲ異ニスル船艙ノ除鼠數比較表

艙口ノ種別	調査船數	一隻ノ船艙ノ平均容積(立方呎)	艙口ノ平均高サ(吋)	除鼠作業ノ一回ノ捕鼠數	平均一隻ノ除鼠數
-------	------	-----------------	------------	-------------	----------

鐵製	二八	一三、五七	一七、八	〇、七	二四
木造	三〇	七、九三	九、五	三、四	八三

之ニ據テ見ルニ「ハツチ」ノ構造ニ就テ稍々意匠ヲ凝ラサンカ容易ニ鼠族ノ攀登ヲ防ギ、艙内ノ繁殖ヲ制遏シ得ベク、從テ船艙以外ニ於テハ鼠族ノ潛匿結果ニ適スルノ箇所少ナキヲ以テ、假令陸上ヨリ船内ニ移竄スルアルモ、之ガ發見撲殺容易ナルノミナラズ、船内飼猫ノ效價モ茲ニ於テカ始メテ發揮シ得ベシ、余ガ此見ヲ以テ二三ノ造船技術家ニ質ス所アリシニ、齊シク首肯ヲ得タリ、然レドモ現時ノ如ク一般船員ノ無頓著ナル往々「ハツチ」ノ周圍ニ貨物其他ノモノヲ放置シ、爲メニ鼠族ノ艙内ニ入ルヲ導クガ如キ不規律ナル慣習ヲ革メシメズンバ、假令高キ鐵艙口タリトモ鼠族ノ攀登容易ニシテ、何等防鼠ノ甲斐ナカルベシ(實驗ニ徴スレバ其他尙ホ貨物内ニ潛ミ、水陸ヲ往來スル鼠族アリ、例ヘバ乾燥セル牛皮ノ束バノ如キハ屈竟ナル潛匿物ナリ、是等ノ剷滅ハ所詮殺鼠瓦斯ノ注入ニ依ラザレバ目的ヲ達シ難カラン)

#### 第五項 水陸鼠族ト附著蚤ノ種屬比較 (附「モルモツト」放置試驗成績)

大阪府細菌室ニ於テハ去リ四十一一年十月ヨリシテ大阪市内買收鼠ノ一部ニ對シ、主トシテ除鼠作業ニ由リ獲得スル所謂特檢鼠族ニ對シ「ソ」ノ種類別並ニ附著蚤ノ検査ヲ開始セリ、左ニ一括セル之ガ成績表ヲ掲グベシ

上表ニ依レバ陸上鼠族ニ於テハ「ムス、デクマヌス」ハ「ムス、ラーツス」ニ對シ六五〇一％トナリ、船舶鼠族ニ於テハ「ムス、デクマヌス」ハ「ムス、ラー

其一 船舶ニ對スル「モルモット」放置試驗成績表

番 號	年 月 日	船 舶 數	放 置 時間 (平均)
一乃至五	自四十二年二月一日 至同年十一月十三日	五	一六 一一五
番 號	年 月 日	附著蚤ノ數竝ニ種屬	計
一乃至五	自四十二年二月一日 至同年十一月十三日	オビスナ ピュレセラ ツクシ 井ールス スクリ スカニ スリタ ンス	三二

一番號(一) 有**病船**、番號(二)(三) 有**毒船**

二番號(四五)有病、有毒船ニアラサルモ、他ノ目的ヲ以テ試放セリ

其二 陸上家屋ニ於ケル「モルモット」放置試験成績表

番 號	年 月 日	家 屋 數	放 置 モ ル モ ツ ト 數	放 置 時 間 (平均)
一 乃 至 三 五	自四十二年五月三日 至同年十一月十八日	三五	四七三	七二三
番 號	年 月 日	附 著 蚤 ノ 數 竝 ニ 種 屬		
一 乃 至 三 五	自四十二年五月三日 至同年十一月十八日	オビユーレ ツクス セラト 井 ル ス ス グ ラ ミ ス カ ニ ス リ ダ シ ス	一	計

一番號一(二三三三)五等ハ殺蚤ノ目的ニ揮發油(石油偏陣)ヲ撒布セル後

二試放セリ此頭數九

二番號一乃至三ハ皆有菌(十七戸)有毒(十八戸)家屋ナリ

「モルモット」放置試験ニ於テモ船舶ニテハ十六頭ノ「モルモット」ヲ用ヒテ二十九疋ノ「ケオビス」ヲ釣取シ、之ニ反シ放置時間比較の短少ナリシモ陸上ニテハ四百六十頭ノ「モルモット」ヲ用ヒテ僅カニ八疋ノ「ケオビス」ヲ得タリ、(殺蛋劑撒布後ニ放テル九頭ノ「モルモット」ヲ四百七十三頭ノ全數ヨリ控除セル數)

水陸ニ於ケル所謂印度蚤ノ數ハ差等著シク、頗ル注目スベキ點ニシテ、即

(原著及實驗)

チ此種ノ検査ノ續行ヲ以テシテモ亦豫メ病毒ノ襲來或ハ病勢ノ消長ヲトスルヲ得ベケンバ確カニ防疫上ノ一進歩ト謂フベキナリ、(然レドモ上來舉ゲル鼠蚤其他ノモノヨリモ未ダ大阪府ニ於テハ一回モ所謂「ペストトレーダール」ヲ見出サルハ甚ダ遺憾トナス)

此項ノ終リニ於テ叙上検査ヲ行フニ當リ、傳染病研究所長北里博士竝ニ同所部長宮島博士其他小泉理學士ノ懇篤ナル指導ヲ與ヘラレタルヲ感謝スルナリ

第六項 船舶檢問所ノ狀況

大阪府ニ於テハ傳染病豫防法第十九條第四項ニ基キ明治三十八年十一月府令第六十八號ヲ發布シ、落綿襪襟其他病毒傳播ノ虞アル物件ノ輸出入ニ對シ之ガ取締ヲ開始シ、一面ニハ水陸ノ各要地ニ檢問所ナルモノヲ設ケテ嚴格ナル監査ノ門戸ヲ構ヘツ、アリ、左ニ水上檢問所ニ於ケル昨年中通過ノ物件品目ヲ各所一括シテ掲表セシ

明治四十二年申水上檢問所通過ノ府令

第六十八號該當品目覽表

數量		品名		數量		品名	
出	入	平均一個量目	出	入	平均一個量目	出	入
一七、二六	二、一八三	一〇	落綿	二、〇四〇	二、一八三	一七、二六	二、一八三
二七四	六、五〇四	一五	古綿	三〇七	六、五〇四	二七四	三〇七
六	七、二二	一五	古著	八	七、二二	六	七、二二
九三	一五	一〇	古布	七、六八四	一五	九三	一五
一三、〇六	一七、八七	三〇	盥櫥	一一、八七	一七、八七	一三、〇六	一七、八七
七四、七三	三	計	古紙		三	七四、七三	

(原著及實驗)

入	平均一個量目	九、七五	四二〇	七二七	八〇九	二八〇三	三九六、六五
平均一個量目		二〇	一〇	一五	一〇	一四	

次ニ明治四十二年中水上檢問所ニ於ケル府令第六十八號該當品通過ノ際ニ生セシ事故調査表ヲ掲ケベシ

出		之		部	
處分別	留置	命消毒	逆送	命燒却	
理由別	件數	數量	件數	數量	件數
證明書不備	二	一七六	一	一〇九	一
證明書不攜帶	二	八五九	一	一〇五	一
密輸送	一	一	一	一	一
計	三、一〇五	一六四	五	一、一三四	一
入		之		部	
證明書不備	二	一七六	一	一〇九	一
證明書不攜帶	二	八五九	一	一〇五	一
密輸送	一	一	一	一	一
計	三、一〇五	一六四	五	一、一三四	一
證明書不備	二	一七六	一	一〇九	一
證明書不攜帶	二	八五九	一	一〇五	一
密輸送	一	一	一	一	一
計	三、一〇五	一六四	五	一、一三四	一

檢問所ノ存在ヲ瞭知シツ、猶且ツ萬一ノ僥倖ナ期シテ潮流ト風向ヲ利用シ密輸送ヲ企テントス若シ檢問所微リセバ是等奸商ノ横行思ヒ知ルベキナリ僅ニ消毒ノ煩ト價格ノ低落トヲ恐レ病毒ノ汚染ト否トハ彼等ノ眼中ニアルナシ

第七項 府令第七十八號並ニ第七十三號ニ基ク設備

八

(特ニ河川沿岸ニ存スルモノ、ミナ舉グ)

水上ノ設備ト共ニ陸上特ニ河川港灣ノ沿岸ニ存在スル建造物ノ改修ヲ促スハ層齒輔車ノ關係上缺クベカラザル問題トス、就中沿岸建造物ニシテ好シテ鼠族ノ麁集スルモノ乃至病毒汚染ヲ被リ易キモノ、製造又ハ收藏所ニ對シテハ、率先之ガ範ヲ作サシムルハ防疫上ノ措置トシテ止ムベカラザル次第ナルノミナラズ、一面ニハ復事物改進ノ好機ヲ逸スベケレバナリ、大阪府令第七十八號ハ實ニ這回ノ好機ヲ促ヘテ發布セラレタリ、而シテ事陸上ニ關スルモノナルモ、他方ニハ亦水面防遏ノ線列ニ繋ガルモノナルヲ以テ此報告ノ内ニ編スルコト、爲シ、又府令第七十三號モ又此主旨ヲ以テ此處ニ併載セリ

(其ニ)府令第七十八號(明治四十一年七月六日發令倉庫納屋其他ノ建物取締規則)主旨ニ基キ、防鼠設備ノ上ヨリシテ、改築或ハ修理ヲ加ヘシメタル倉庫納屋其他ノ建物ニシテ、河川沿岸存在ノモノヲ掲グレバ左ノ如シ、但左ニ掲グルモノハ防疫本部ノ主管ニ屬スルモノ、ミニシテ(製造場乃至二十坪以上ノ收藏所)小規模ノ特種營業者、小賣店ハ悉ク所轄警察官署ノ主管ニ委セリ、是等ヲ網羅スレバ殆ド數千棟ヲ數フルニ至ルヲ以テ、此ニハ省略スベシ

甲、改築修理ヲ加ヘシメタル建物 (大阪市)

(自明治四十一年七月七日至四十二年十二月末日)

製造又ハ收藏品	穀類	綿又ハ棉	寒天	味噌	湯葉	麵類	有機性肥料	羽毛類
棟數	三	一五	二	六	五	一	一	一



製造又ハ 收蔵品	層物類	雜貨	穀物類	皮革	菓子	豆腐	麵	葛	搔餅
棟數	一	二五	一五	一五	九	五	三	一	一
製造又ハ 收蔵品	石鹼	古麻袋	寸莎						
棟數	一	一	一						
計									

上記建物ノ沿在スル河名ハ(安治川以下十三川)逐一掲グルチ略シ、猶ホ堺市其他郡部ニ存スル本部主管ノ建物ニシテ、港灣河川ニ沿ヘルモノモ煩雜ヲ避クルカ爲メ省略ス

乙、既設建物ニ屬シ(府令第七十八號發布以前)構造完備、改築修理ヲ加ヘシメザル分(大阪市)

製造又ハ 收蔵品	穀類	皮革	穀粉	有機性古俵其 他穀類	飼	古麻	羽毛類	菓子
棟數	四三	三八	二三	二三	四八	四七	二五	二三
製造又ハ 收蔵品	牛蠟	古敷物	綿又 ハ棉	層物類	襪襪	味噌	乾物類	葛
棟數	九	七	三九	四	二七	二三	一三	九
製造又ハ 收蔵品	寸莎	糖	苧麻	煎餅	牛瓜	麩	古著	麵類
棟數	六	四	四	二	六	五	四	三
製造又ハ 收蔵品	麵麴	湯葉	豆腐	菜種	砂糖	雜貨		
棟數	二	一	一	一	一	三三		
計								

上記建物ノ沿在スル川名ハ(千間川以下三十四川)逐一掲グルチ略シ、尙ホ堺市其他郡部ニ存スル本部主管ノ乙種建物ニシテ港灣河川ニ沿ヘルモノモ亦茲ニハ省略ス

(原著及實驗)

(其二)府令第七十三號(明治四十一年六月二十五日發布防鼠設備ニ關スル件)ニ基キ現時ニ至ルマデ之ガ設備ヲ施セシ箇所ハ大阪市内ニ於テ七十七區域、堺市内五區域、此戸數總計三千五百戸ニ達シ、内水邊ニ莅タル區域ハ三十八箇所ニ上リ、尙ホ他ニ自衛的ノモノハ七區域ヲ數フ

設備種別	防圍建物種別	區域數	防圍總延 長間數	設備費
命令ニ基 クモノ	紡績工場、製紙工場、船舶貨 物收蔵所、普通家屋	三八	四、五六	九、二三、七五〇
自衛ニ基 クモノ	紡績工場、製油工場、雜貨物 藏置所、停車場、新聞社建物	七	一、四四五	三、一四、六〇〇
計		四四	五、九一二	一二、四四、三五〇

大阪市ノ西部富島町一帶ノ如キハ川口波止場ト稱シ、船舶搭載貨物ノ出入頻繁ナル箇所ニシテ隨テ既往ニ於ケル苦シキ經驗ヲ得タル結果、今ヤ府令第七十三號並ニ第七十八號ノ設備ヲ以テ重圍ヲ築キ、嚴格ナル武裝ヲ固メツ、アリ

第八項 船舶「荷粉」ノ取締處置

明治三十二年神戸市ニ於ケル「バスト」流行原因ノ主ナルモノハ、夫ノ共交合資會社ノ取扱シ Schiffskehlricht ニ由ル病毒散布ニ基キシモノナラントハ當時先輩諸士ノ調査セル意見ノ一致スル所ニシテ吾人等ノ記憶ニモ猶ホ新ナリ、大阪市ニ於ケル今次ノ流行ニモ間々意外ノ箇所ヨリシテ「バスト」鼠ヲ發見セルコトアリテ(市内ノ邊陲殆ド郡部ニ接續スル養鶏場、製粉所等ニ於テ)深ク追窮ヲ試ルニ船舶「荷粉」ニ系統ヲ持ツモノ多シ抑々「荷粉」ナルモノハ貨物ノ包裝地ニ隨テ内容ノ漏逸セルモノニシテ、

(原著及實驗)

從テ其種類ノ多樣ナルコト殆ド枚擧ニ遑アラズ、而シテ斯ノ如キ『荷粉』ハ如何ナル方法ニ依リ處分セラレ、如何ナル方面ニ向テ需要散逸スルカハ余ハ昨年九月大日本私立衛生會雜誌(第三百十七號寄書欄)ニ於テ既ニ略ホ報道スル所アリシヲ以テ、此所ニハ直チニ取締處置方法ニ及ハントスルモ、之レ亦多クハ學術上ノ趣味ニ遠ザカリ易キヲ以テ、左ニハ唯昨年來大阪府ニ於テ船舶『荷粉』ノ一部ニ就テ(主トシテ普通消毒法施行ノ困難ナル而カモ鼠族ノ附著シ易キモノヲ選ミ)「バスト」菌ノ運命ヲ試驗セル結果ヲ摘載セントス

試驗ニ供セシ荷粉ハ米麥、大豆、小豆、菜種、豆粕、油粕、餅其他ノ乾魚碎片及ビ蘆屑、塵芥等ヲ混ゼルモノニシテ、即チ未ダ荷粉取扱營業者ノ手ニ入りテ攪分 dursnuchen セラレザルモノ(水上警察署ヲ經テ船舶ヨリ直チニ徵發セリ)之等ノ一定量ニ一定ノ方法ヲ以テ「バスト」菌ヲ混シタルモノ四個ヲ裝置シテ、其生存期間ヲ檢スルニ、左ノ結果ニ到着セリ

	平均氣溫攝氏	培養試驗上	動物試驗上
甲	日光直射ニ依ル乾燥	二・〇五	六日間
乙	室内ノ自然乾燥	一八・一〇	十一日間
丙	室内放置常水注加保濕	二一・二〇	十三日間
丁	室内放置肉汁注加保濕	二一・二〇	十二日間
			十六日間

即チ此成績ヲ以テセバ上記ノ荷粉ヲ汚染スル病毒ノ運命モ短キハ九日、長キハ十六日ニシテ、二十日ヲ出ズルモノナシ、余ハ此試驗成績ヲ基礎トシテ從來難解ノ問題タル『荷粉』ノ取締處置ニ就テ、之ガ營業者ヲシテ自ラ適

從セシメ得ル方法ノ上ニ出デシメント企圖シツ、アリ

結 論

明治三十二年第一次黑死病流行以來之ガ患者ヲ出スコト實ニ一千八百名、「全治百十八名、死亡竝ニ死後發見九百九十名」ニ達シ、買收其他ノ除鼠數ハ府下ヲ通ジテ殆ド一千萬頭ニ垂ントシテ、内「バスト」鼠ノ含有數一萬四百四十六頭ニ及ブ、而シテ市、府、國ノ支出セシ防疫費額ハ既ニ三百萬圓ヲ超過セントス(其他財界ニ與ヘシ冥々ノ打撃ハ多大ノモノナリシナラン)「バスト」ノ恐ルベキハ實ニ財界ノ擾亂、資財ノ涸渴ニアルベシ

明治四十年末以降ノ大討伐ハ遂ニ偉效ヲ奏シ、病勢ノ頓挫ヲ來スヤ、次デ侵入ノ門戸ニ對シ嚴格ナル鎖鑰ヲ施シ、水面防遏ノ措置著々伸ブルニ至リテハ、復タ往日ノ如キ慘況ヲ觀ルナカルベシ然リト雖モ世界ニ於ケル病癘ノ火口ニシテ、噴烟尙ホ歇マザル以上ハ、何レノ日力再ビ飛炎ヲ蒙ラザルナシトセズ、否ナ災禍ノ導火ハ不斷存在スルモノト看做シテ可ナリ

最近ニ於ケル港務部發見ノ船舶「バスト」患者

竝ニ「バスト」鼠一覽表

船名	使用者	出發地	出 發	著 航	航 乘
筑前丸	日本郵船株式會社	上海	四月三十日	橫濱	四月二十日
アイラ	同	孟買	四月二十五日	神戶	四月二十二日
計					
					一
					四
					五

吾人ハ水上防疫ヲ稱ヘテ先ヅ大阪府ニ於ケル之ガ施設ノ一斑ヲ報シ、幾分

爲メニ世間ニ注意ヲ促スヲ得バ、國家防疫上ノ慶幸ト言フベク、翻テハ貴重ナル本誌ノ一部ヲ汚瀆セルノ罪幸ニ免ルヲ得ベケン乎

\* \* \* \* \*

# 抄錄

## ●耳根治手術ト耳内手術ニ就テ

(三十七年卒業。大阪市開業)  
(第三回日本醫學會耳鼻咽喉科部) 濱地 藤太郎

紀元一八八九年キユスターが初メテ耳根治手術ヲ行ヒテヨリ、爰ニ二十有餘年、幾多ノ生靈ハ實ニ之ニ依テ救ハレタルナリ、次デスタツケ(一八九七年)其他ノ中興アリテ、次デ該手術ハ殆ンド完域ニスレリト云フベシ爾來外皮切法等ニ二三ノ考案ナキニアラズ、即チH字形瓣N字形瓣等之レナリ

耳内手術ニ就テハ既ニ明治三十九年第二回日本醫學會耳鼻咽喉分科會ニ於テ柏原學士ノ報告アリ、次デ昨四十二年ニハ大日本耳鼻咽喉科學會ニ於テ京都臨牀ヨリ横山氏ハ再ビ『耳内手術ニ就テ』ナル題下ニ之レヲ論述セル處アリ、兩者相應ジテ其詳細ヲ盡セルヲ以テ、今爰ニ之レヲ述ベントハ恰モ蛇足ノ感ナシトセズト雖モ、余ハ耳根治手術ト共ニ、主トシテ之レヲ臨牀的方面ヨリシ、余ガ過去三ヶ年間ニ於ケル實驗例ニ就キ、其成績ヲ發表シテ以テ、同臭諸士ノ垂教ヲ仰ガントス

耳根治手術(耳全鑿開術)及ビ耳内手術ノ適應症ハ其ノ繁ヲ顧ミテ爰ニ之レヲ省略スト雖モ、其ノ耳内手術ノ適示ニヨレバ、根治手術ノ範圍ハ著シク狭小セラレタルヲ見ル、今之レヲ余ノ實驗例ニ徴シ其如何ナル症ガ根治手術ニ適シ、或ハ耳内手術ニ適スルカヲ示サント欲ス

耳全鑿開術(根治手術)ヲ施シタルモノ十八例中

一、乳嘴突起炎ニシテ、外膿瘍ヲ形成セルモノ一三

一、急性化膿性中耳炎ノ經過中ニ來リシモノ七

一、慢性化膿性中耳炎ノ經過中ニ來リシモノ六

二、化膿性乳嘴突起炎ニシテ、外膿瘍ノ形成ナキモノ五例中

一、急性化膿性中耳炎ノ經過中ニ來リシモノ二

一、慢性化膿性中耳炎ノ經過中ニ來リシモノ三

之レヲ耳性頭蓋内合併症ノ有無ニ分テバ

一、頭蓋内合併症ヲ有スルモノ五

一、硬腦膜外膿瘍形成三

一、腦膿瘍(頭顱葉)一

一、橫竇周圍炎一

二、頭蓋内合併症ナキモノ一三

之レヲ乳嘴突起ノ外方骨穿孔ノ有無ニ分テバ

一、乳嘴突起ノ外面ニ瘻孔ヲ有セルモノ一〇

二、穿孔ナキモノ八

右ノ内急性中耳炎ノ經過中ニ來リシ、急性乳嘴突起炎ニシテ、耳内手術ヲ施コシ治癒ヲ得ズ、再ビ根治手術ヲ施セシモノ一例アリ

耳内手術ヲ施シタルモノ二十例中

一、單純ノ鼓室上窩化膿ニシテ、弛緩膜部ニ瘻孔ヲ有シ、鼓膜穿孔ナキモノ七

二、頑固ナル慢性化膿性中耳炎ニシテ、鼓膜缺損ニ兼ネテ尙ホ炎症ノ鼓